



6月定例市議会 市長所信

6月議会が6月9日から27日までの19日間の日程で開催されました。開会日には、議案審議に先立ち、当面する市政の重要課題につきまして、市長より所信が表明されます。今議会で表明された主な内容につきましては、次のとおりです。

「平成28年熊本地震」の対応について

4月14日、16日に熊本地方を震源とする「平成28年熊本地震」が発生し、熊本県および大分県の各地で広範囲にわたる甚大な被害をもたらしました。この度の地震により、犠牲になられた方々のご冥福を謹んでお祈りするとともに、被災されました方々に心からお見舞いを申し上げます。

本市は、「平成28年熊本地震」の被災地を支援するための庁内組織として、4月18日に「阿南市地震被災地支援対策本部」を立ち上げ、情報の一元化を図るとともに、支援策等について検討してきました。

まず、被災地への義援金については、阿南市社会福祉協議会と共同により、市内19カ所の公共施設に募金箱を設置し、市ホームページや広報あなん等で募金を呼びかけたところ、多くの皆さま方にご協力を賜り、5月末時点で、85万7488円の義援金を、中央共同募金会等を通じて被災地にお送りしました。また、支援物資は、本市が

備蓄している水・毛布・非常食等を準備し、要請があり次第、直ちに発送できる体制をとっています。

次に、人的支援については、九州地方知事会から関西広域連合を通じて徳島県に対し職員の派遣依頼がありました。徳島県では、県と市町村が一体となり被災地の支援を行い、県から市長会を通じて本市に職員の派遣依頼があり、5月中旬から職員を熊本県益城町へ、順次派遣しています。

これまでに、益城町支援チーム第10陣および第18陣の一員として、それぞれ2人の行政職員が避難所運営支援業務等に従事し、また、家屋被害認定支援チーム第4陣の一員として、建築士資格を持つ職員2人が家屋被害認定業務に従事しました。さらには、保健師チーム第11班および第13班の一員として、それぞれ1人の保健師が避難所における健康相談や家庭訪問による健康調査に当たっています。

今後も、災害支援および派遣の要請がありましたら、速やかに対応するとともに、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

学校図書館サポーター事業について

平成26年の学校図書館法の一部改正により、「児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員を置くよう努めなければならない」とされました。

本市では、これまでに地域のボランティア団体による絵本等の読み聞かせを通して、子どもの読書活動の推進にご尽力をいただいています。

さらに子どもたちが自発的な読書習慣を身につけ、確かな学びや豊かな心を育むうえで重要な役割を担う学校図書館の充実を図るため、平成28年度から「学校図書館サポーター」を、小学校に2人、中学校に1人配置し、小学校は、富岡小学校および羽ノ浦小学校を拠点に各小学校を巡回、中学校は、阿南中学校を拠点に各中学校を巡回しています。

現在、12学級以上ある学校では、司書教諭が配置されていますが、その多くはクラス担任や教科担任であるため、なかなか学校図書館の整備まで手が回らないのが現状です。このようなことから、学校図書や貸出をはじめ、読書の啓発等に従事する「学校図書館サポーター」を配置することにより、児童生徒が読書の大切さを知り、読書によって言葉を学び、知識や表現力を身につけるための環境づくり

長野県上田市、阿南町との交流

5月、NHK総合テレビで阿南市を大きく取り上げた「鶴瓶の家族に乾杯」と「東日本大震災プロジェクトスポーツで我が町に夢を！」が全国放送されました。

「鶴瓶の家族に乾杯」は、同時間帯では視聴率第1位を記録したようです。また、「スポーツで我が町に夢を！」は、野球を産業として位置づけた阿南市独自の取組が、地域活性化の好事例として全国で紹介されたことは、野球によるまちづくりの大きな力を与えてくれたものと思っています。

こうした良い流れに乗るかたちで、6月11日から長野県上田市と同県下伊那郡阿南町に、本市職員とおもてなしチーム、A B O 60からなる野球交流訪問団を派遣します。

上田市では、全国から3000人の野球愛好者が集まる全日本生涯野球大会の開会式で、A B O 60のダンスが披露されます。真つ赤な半袖シャツに白のミニスカートをはいた18人のおぼ

ちゃんによるパフォーマンスは、球場に集まった中高年・シニアプレーヤーに大きなインパクトを与え、野球のまちを宣伝する、またとない機会です。

また、阿南町につきましては、一昨年、台風により加茂谷地区で甚大な被害が出た際に、澤田副町長と松澤総務課長が遠路車で駆けつけてくださり、勝野町長から阿南市民に向けてのメッセージを添えて、見舞金30万円を頂いた恩があります。

今年、阿南町との交流が始まって25年の節目にあたり災害見舞のお礼も兼ねて、野球交流訪問団を派遣し、交流の絆を深めます。ここでも、A B O 60の皆さんは交流試合の応援で花を咲かせていただき、あわせて救護施設阿南富草寮を慰問してくださる予定です。A B O 60の会員の皆さまには、自己負担をしていただいてまで、野球による阿南市のPRにご尽力をいただいていることに感謝します。

今回の長野県訪問が意義深いものとなり、その結果として多くの皆さまが阿南市に来てくださることを期待しています。

「赤ちゃん授業」について

赤ちゃんと中学生がふれあう「赤ちゃん授業」について、平成27年度までは、県の委託事業として取り組んでいましたが、平成28年度からは、市の単独事業として実施します。

現代社会が直面している問題の一つに、核家族化による孤立した親の育児不安や育児ストレスによる児童虐待・育児放棄などがあり、これらを未然に防止するとともに早期発見につなげるために、地域における身近な支援の必要性が高まっています。

そのような中、失われつつある地域のつながりを見直し、地域の力で子育てを応援したいと活動されています。「阿南市赤ちゃん授業実行委員会」のご協力のもと、平成28年度は羽ノ浦中学校および加茂谷中学校、福井中学校、椿町中学校で本事業を実施することになりました。

「赤ちゃん授業」では、次世代を担う中学生が赤ちゃんと関わる体験を通じて、命の大切さや親の思いに触れることで、自分自身や身近にいる人を大切にする気持ちを育み、将来的な育児不安を少しでもなくし、コミュニケーション能力を養う機会となる授業にしたいと考えています。

女性が安心して働ける環境づくりの推進について

2月3日に「あなんテレワーク推進検討会議」を開催し、実際に在宅で仕事をしている北海道のテレワーカーとテレビ会議で情報交換を行うとともに、庁内で作業部会を組織し、推進方策について研究を進めてきました。

その実践に向けて、今年、「あなん・安心・ICT」テレワークで女性活躍事業」として、テレワークに関する市民ニーズの分析と調査を目的に、市内在住の子育て世代の女性を対象とした「女性のための働き方ワークショップ」を開催します。ワークショップでは、テレワークの仕組みの説明のほか、報酬内容や働きたい時間など、参加者の知りたい情報や意見等について、グループ討議を通じて聞き取りを行います。5月31日には、富岡公民館で女性15人が参加して、第1回ワークショップを開催しました。11月までに4回のワークショップを実施し、検証を行った後、平成29年度には、仮称「あなんテレワーク推進センター」を開設し、テレワークをめざす市内女性のネットワークづくりを支援していきたいと考えています。

観光施設整備について

昨年の11月から整備を進めてきた市道北の脇海岸線および駐車場建設

工事は、6月中旬には完成する運びとなりました。整備をしました市道は海岸まで一直線に走る延長193メートル、2車線での幅員7メートルに、2・5メートルの歩道を併設している、自然環境を重視し、雨水地下浸透式を採用した駐車場には、69台の乗用車を駐車させることができるなど、市の観光施策として長年の課題でありました道路整備が、これにより完成を遂げたこととなります。現在、7月1日の海開きに合わせて、完成式典を行うべく最終的な仕上げを行っています。が、海水浴シーズンのみならず、北の脇海岸を愛する多くの方にご利用いただきたいと願っています。

また、道の駅「公方の郷ながわ」に、総務省の補助事業を活用し、公衆無線LANを整備しました。これにより、スマートフォン等で、誰もが無料で気軽にインターネットを利用できる環境が整いました。無料でのWiFi環境は、訪日外国人観光客にとっても、必須となっていることから、今後本事業を活用した環境整備を進めていきたいと考えています。

紙面の都合上、抜粋して要旨部分のみ掲載しています。全文をご覧になりたい方は、市ホームページをご覧ください。
また、後日作成されます市議会会議録は市立図書館等で閲覧することができます。